

よんでネット* 2022 秋号

発行口茅ヶ崎市立図書館／協力口茅ヶ崎図書館子どもの本の会

『ヤナギ^{どお}通りの おばけやしき』

ルイス・スロボドキン＝作 小宮 由＝訳

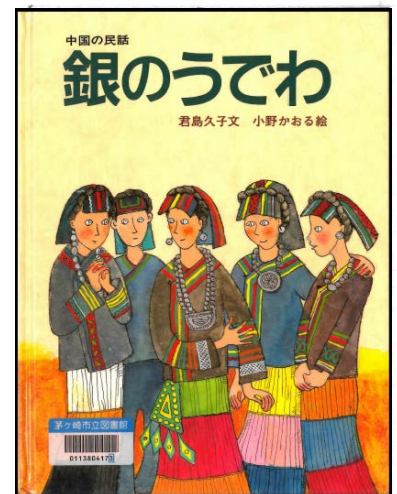


瑞雲舎〔933ス〕

ハロウィンの夜、ヤナギ通りの子どもたちが
「いたずらか、おかしか!」とさけぶと、おとなたちは、
いたずらをされては こまるので おかしをくれます。
ところが、おばけやしきといわれる家に行くと、
おじいさんが「いたずらをあげよう」といって…。
ハロウィンの夜の楽しいおはなし。

『中国の民話 銀のうでわ』 君島久子 文 小野かおる 絵

アーツは朝から晩まで いじわるな まま母に
はたらかされていた。本当の かあさんがくれた
牝牛^{めうし}が いつも アーツを助^{たす}けてくれたが、まま母に
ころされてしまった。でも、牝牛^{めうし}の骨^{ほね}は、アーツが
おまつりに行けるように、美しいふくや銀^{ぎん}のうでわを
のこしてくれた。それを身^みにつけて、こっそり出かけた
アーツは、りっぱな若者^{わかもの}に出会^あい…。



岩波書店〔E・絵本のコーナー〕



『ひとがつくった どうぶつ^{みち}の道』

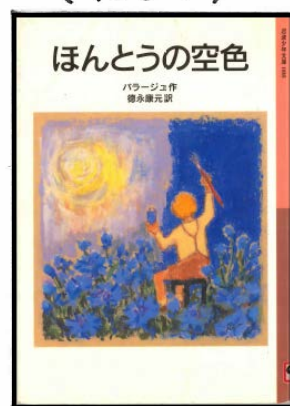
(まるふ出版[E・絵本のコーナー] キム・ファン文 堀川理万子 絵)

むかしから動物^{どうぶつ}たちがくらしてきた野原や森に道路^{どうろ}ができた。たくさんの車が走るようになって、交通^{こうつう}じこにある動物たちがふえてしまった。「車にひかれる動物をなんとかへらせないだろうか…」そう考えた人たちが作ったものは…?

『ほんとうの空色』 バラージュ作 徳永康元 訳

岩波少年文庫
{9081}

お母さんと二人暮らしの少年フェルコーは、絵^えが得意^{とくい}。だけ^{だけ}に貧乏^{びんぼう}で絵の具を買ってもらえない。ある日 フェルコーが、野原の花の汁^{しる}で青い絵の具を作り、空^{そら}を描^{えが}くと、絵の中で太陽^{たいやう}や月^{つき}や星^{ほし}が光^{かがや}輝^{きら}きだした。晴^はれ、急^{かみなり}な雨^{あめ}、雷^{かみなり}。次々に不思議^{ふしぎ}な出来事^{できごと}が起こ^おこって…。



『オンボロやしきの人形^{にんぎょう}たち』

フランシス・ホジソン・バーネット作 尾崎愛子 訳 平澤朋子 絵

シンシアは2つの人形の家をもっています。1つは新しくてすてきな「ピカピカ城^{じょう}」、もう1つは おばあさんからもらった古^{ふる}くてぼろぼろの「オンボロやしき」。でも オンボロやしきの人形たちは、いつも陽気^{ようき}で楽しくくらしていました。ところが、オンボロやしきが もやされてしまうことにな^なり…

『こうら』 内田 至ぶん 金尾恵子 文 福音館書店 [E・絵本のコーナー]

恐竜^{きょうりゅう}がいたところからずっと、カメのなかまは生きている。よろいのようなこうらが、危険^{きけん}から身^みを守^{まも}ってくれたのだ。強^ひさの秘密^{みつ}… それは、見えているこうらの下^{した}にもうひとつ あつこうらがあること。カメのこうらは住^すんでいる場所^{ばしょ}やおそ^{おそ}くる敵^{てき}にあわせ、さまざまに進^{しん}化^かしてきた。

